

企画セッション一覧

9月3日(木) 10:00~12:00

| ラウンドテーブル | | | |
|-------------------------|--------------------------|---------------------------------------|--------|
| 企画者 (RT) | 所属 | 題目 | 教室 |
| 谷 美奈 安永 悟 横山 千晶 | 帝塚山大学 久留米大学 慶應義塾大学 | 学生の「内発性」を育む自己表現教育 — —音楽・芸術鑑賞・文章— | 28-201 |
| 藤本 元啓 御厨まり子 横田 利久 | 金沢工業大学 明星大学 関西国際大学 | 初年次教育における職員の役割について— 職員主体と教職協働— 第3報 | 28-204 |

企画セッション I (9/3) ラウンドテーブル一覧

| | |
|--------------|---|
| 題 目 | 学生の「内発性」を育む自己表現教育—音楽・芸術鑑賞・文章— |
| 担当者名・所属 | 谷 美奈 (帝塚山大学)、安永 悟 (久留米大学)、横山 千晶 (慶應義塾大学) |
| 概要 (内容要旨) | 2012年8月中教審答申が「能動的な学修 (アクティブラーニング)」の概念を具体的に示したことによって、学生による「主体的な学び」の育成が急務であるという認識が広がっている。しかし、より根本的には、学び考えることへの志向性といった学生の「内発性」自体を育てる視点も重要と考える。そこで、本ラウンドテーブルでは、伝統的なアカデミック教育とは一線を画した自己表現教育の事例をもとに、大学初年次教育において学生の「内発性」を喚起しうる教育のあり方を模索することとする。 |
| キーワード | 自己表現教育、学生の内発性、即興表現、視覚的思考、自己省察 |

| | |
|--------------|---|
| 題 目 | 初年次教育における職員の役割について—職員主体と教職協働— 第3報 |
| 担当者名・所属 | 藤本 元啓 (金沢工業大学)、御厨まり子 (明星大学)、横田 利久 (関西国際大学) |
| 概要 (内容要旨) | 職員の大会参加目的のひとつが他大学の事例情報の収集にあることは間違いがない。昨年度は帝塚山大学と金沢工業大学が、職員主体あるいは教職協働による初年次教育への取り組みの具体例と成果を紹介し、参加者とともに悩みを含めた自由な討論を行った。終了後、参加者から次年度継続の声があったことも踏まえて、今回は第3報として 明星大学の「職員が主体的に授業の内容・運営に関わる仕組みづくり (成功と失敗)」、関西国際大学の「学修支援室における初年次教育の取り組み」と題する話題を提供し、これらをもとに参加者の所属大学における初年次学生に対する支援体制の実例紹介や課題等についての意見交換を行いたい。 |
| キーワード | 職員の主体性、学修支援室、職員の授業運営、成功と失敗、教職協働 |

企画セッション一覧

9月4日（金）13：00～15：00

| ラウンドテーブル | | | |
|--|--|---|--------|
| 企画者（RT） | 所属 | 題目 | 教室 |
| 榎本 達彦 塩沢 一平 | 明星大学 山梨学院大学 | 初年次教育と専門教育はつながるのか？ | 28-201 |
| 清水 亮 上野 寛子 木村 拓也 田中 友理 | 神戸学院大学 明治学院大学 九州大学 名古屋大学 | こうしたら学生の学びは深まる：コーチング とピアラーニングによる学びのベース創り | 28-202 |
| たなかよしこ 馬場真知子 小山 義徳 河住有希子 國弘 保明 | 日本工業大学 東京農工大学 千葉大学 日本工業大学 日本工業大学 | 授業改善のアイデア集～初等中等教育の学 びを生かした初年次から専門教育へ | 28-204 |

企画セッションⅡ (9/4) ラウンドテーブル一覧

| | |
|--------------|--|
| 題 目 | 初年次教育と専門教育はつながるのか？ |
| 担当者名・所属 | 榎本 達彦 (明星大学)、塩沢 一平 (山梨学院大学) |
| 概要 (内容要旨) | <p>初年次教育は学生の大学での学びおよび大学生活を活性化し、将来につながる学びを得るきっかけを提供するものだとするれば、そして、大学教育が高等学校までの基礎学力を土台として専門教育を施す場であるとすれば、初年次教育の結果が何らかの形で専門教育につながっているはずである。</p> <p>そこで、初年次教育と専門教育のつながりについて、幅広い意見を聴き、それぞれの現場での様子を持ち寄って、意見交換を行う。一つの明確な問題の解決を目指すのではなく、現状がどのようになっているか、問題が何処にあるのかを明らかにしたいと考える。グループに分かれ、模造紙や付箋を使用したアクティブラーニングで進行する。</p> |
| キーワード | 初年次教育、専門教育、接続 |

| | |
|--------------|---|
| 題 目 | こうしたら学生の学びは深まる：コーチングとピアラーニングによる学びのベース創り |
| 担当者名・所属 | 清水 亮 (神戸学院大学)、上野 寛子 (明治学院大学)、木村 拓也 (九州大学)、田中 友理 (名古屋大学) |
| 概要 (内容要旨) | <p>これからの大学教育では、初等中等教育において育まれた「学力の三要素」をより確実なものにすることがますます重要となってくる。そのためには、正しい「知識」とそれを「活用」する「スキル」を一人ひとりが習得できる授業が必要である。本ラウンドテーブルでは、大学初年次においてコーチングとピアラーニングを軸にした2つの授業実践の紹介を行い(明治学院大学「知的世界を楽しむためのアカデミック・スキル養成講座」および九州大学「課題協学A」)、実際に受講した学生がどのような力を習得したのか、そして、その後の大学生活がどのように変化したのかについて学生自身に語ってもらう。学生の学びを深める授業の創り方についてフロア全体で議論したい。</p> |
| キーワード | 授業デザイン、スタディスキルズ、協同学習・グループワーク、学習意欲・動機、ジェネリックスキル |

| | |
|--------------|--|
| 題 目 | 授業改善のアイデア集～初等中等教育の学びを生かした初年次から専門教育へ |
| 担当者名・所属 | たなかよしこ（日本工業大学）、馬場眞知子（東京農工大学）、 小山 義徳（千葉大学）、河住有希子（日本工業大学）、國弘 保明（日本工業大学） |
| 概要 (内容要旨) | <p>初等・中等教育では、生徒の学びを指導するためにさまざまな形態がとられるようになった。発達段階での学習において主体的な学びを醸成することが可能になった今日、大学では、どのような形で、学生の学びに主体性を持たせるかという課題がある。ユニバーサルアクセス型になった大学では、義務教育とは異なる教育の機会の選択があった上での主体性の確保が必要になっている。さまざまな大学での学生の主体性の育みとしての授業改善アイデアを提供し、議論の遡上にのせる。</p> <p>本ラウンドテーブルでは、大学一年生の18才という青年期後期から22才の成人期に移行する上での発達課題とともに主体性を捉えていくことを議論したい。</p> |
| キーワード | 問いを立てる、フシンセツ、自己調整学習、大教室、アクティブラーニング |